



ビジョイサラニ駅を発車する、国旗カラーを纏った列車

ダッカ都市鉄道6号線、橋梁
および高架駅建設工事(CP-5)
(バングラデシュ)

鉄建建設

バングラデシュの首都ダッカでは、国際協力機構(JICA)が定めた「ダッカ都市交通戦略計画(STP)」に基づき、大量輸送システム(MRT)を段階的に整備する国家プロジェクトが進められた。鉄建建設・AML・安部日鋼JVは、STPの優先プロジェクトとして選ばれたMRT 6号線整備の一部を担った。発注者とエンジニア、施工者が協議を重ね、JICAや日本大使館といった関係者も一丸となり、安全性を確保しつつ交通への影響を抑えながら無事完成することができた。

関係者一丸で技術課題克服

安全確保し交通への影響最小化



カルワンバザール駅方面への架設LG準備作業



国会前区間の3径間PC箱桁橋施工中

鉄建建設JVは、MRT6号線のCP-05工区の施工を担当。ビジョイサラニ駅〜カルワンバザール駅間の約3・2kmにわたる鉄道高架橋と3駅を建設した。同工区のクリティカルパスは、高架橋1スパン平均30mを11分割したプレキャストの箱桁を、製作ヤードから運搬・架設するスパンバイスパン工法だった。特に、既設道路横断部の最長スパンは45m、曲線半径200mという条件であり、難易度が高かった。曲がり角が大きく、桁の架設に使う移動式

概要	
▷実施者＝鉄建建設・AML ・安部日鋼JV ▷実施国＝バングラデシュ人民共和国 ▷実施都市・地区＝ダッカ ▷プロジェクト関係者＝ダッカ都市交通公社(発注者)、NKDM Association: 日本	工営・Nippon Koei India・Delhi Metro Rail Corporation・Mott Macdonald(UK)、Mott Macdonald(India)、Developed Design Consultants(BD)(設計・監理者) ▷実施期間＝2018年8月～23年12月

カルワンバザール駅では、駅本体工事を先行し、駅構造物の1階部分にプレキャストの桁の仮置きスペースを設け、地上からクローラクレーンでその位置に引き上げ、その桁をラウンチングガーターでつり上げる施工手順で高架橋架設工事を実施し、これにより全工期の短縮と交通への影響の最小化につなげた。



カルワンバザール駅渋滞区間でのLG架設とセグメント完成

